

ありがとう

総社中央小学校だより



No.13

令和5年12月4日
校長 藤本千登世

一人一人が輝き、成長が見られた学習発表会

11月25日、インフルエンザが心配されながらも全学年、学習発表会を行うことができました。広い体育館で、大勢の人の前での発表に子ども達は緊張したことと思いますが、勇気を出して声を出す姿や友達と協力する姿に成長を感じ、感激しました。6年のタイトルのように、一人一人が輝いた学習発表会でした。ご参観ありがとうございました。



1年：1年生の1日大はっぴょう

楽しい1日を発表した1年生は、入学時からずいぶん成長した姿が見られました。



2年：Smiles

笑顔で元気いっぱいに、様々な外国の紹介や歌・鍵盤ハーモニカの発表をしました。



3年：We are 3年生！なかま！

仲間と心をついに、楽しそうにノリノリのダンスや詩の暗唱を披露することができました。



4年：秋のハーモニー♪

合唱・合奏に呼びかけを加え、心がそろったすてきなハーモニーを聞かせてくれました。



5年：Go! Go! 獲れジャーニー

教科の発表は、仲間と協力し工夫して取り組みました。成長した5年生は、来年のリーダーとしての活躍が期待できます。



6年：「全力で輝く・・・」

一人一人の個性が輝き、全力で発表する姿は、さすが中央小の6年生でした。中央小と6年生の魅力をしっかり伝えてくれました。

自己肯定感を高めるには？

本校の児童は、明るく前向きな児童が多いと来校者からも言っていたのですが、その一方で職員は、自信がなくて一歩が踏み出せない子がいるのが気になっています。そこで、全校児童に「自分にはよいところがある」という項目でアンケートをとったところ、肯定的回答が67%と低い結果が出ました。そういえば、以前新聞に「日本の子ども達はアメリカ・中国・韓国の子供達に比べて自己肯定感が低い」というデータが載っていました。自己肯定感についての書籍を何冊か読んだところ、自己肯定感は子どもの幸せな将来につながっていることや学力の向上につながっているというのです。

長所のない子はいません。学校・家庭・地域で、子どもの良さを見つけ、しっかり褒め・認めることで、子ども達の自己肯定感を高めてやりたいものです。本校の目指す教師像に「ほめ、認める達人になろう」があるので、全職員で今後も心がけていきます。そして、「Let's try! 中央!」を合言葉に、これからもどの子も活躍できる場や子ども同士で認め合う活動の場をしっかりと設定していきたいと思えます。

「子どもの自己肯定感を高める10の魔法の言葉」

<承認のマジックワード>

① すごいね ② さすがだね ③ いいね

- ・ わざとらしく褒めるのではなく、徹底的に認める。
- ・ 「軽く、明るく、さりげなく」
- ・ 勉強については①②ではなく、③や「うれしいな」というアイメッセージを

<感謝のマジックワード>

④ ありがとう ⑤ うれしい ⑥ 助かった

- ・ 積極的に「ありがとう」と言えるシチュエーションづくりを
- ・ ④⑤⑥を一緒に使って効果を高める。

<感心のマジックワード>

⑦ なるほど ⑧ 知らなかった

<安心のマジックワード>

⑨ だいじょうぶ

- ・ 子ども達の始まったばかりの人生には、希望と同じくらい不安がある。

<指摘するマジックワード>

⑩ らしくないね

- ・ 本来のあなたを認めているからこそ出てくる言葉。ぴしゃりと1回だけ言う。

<著者：石田勝紀>



高齢者との交流会(4年)

4年生が総合的な学習(福祉学習)で、ふれあいサロンの方を33人お迎えし、音楽・



体育発表やO×クイズなどをし、手紙を渡しました。「元気が出ました」と言っていました。

芸術鑑賞会「走れメロス」

「山の手事情社」の劇「走れメロス」の鑑賞会がありました。「友情・信頼」をテーマに



繰り広げられる迫真の演技に、児童は引き込まれ、涙が出たという児童もいるほどでした。

